

ようこそ畑へ

2008年8月4日(月), 7日(木) VOL. 8

ズッキーニがたくさん採れています。先週のお便りで紹介したきゅうりと同じく、長沼で2年、豊滝で3年、種採りを続けてきたものです。

伊達家では、出来る限り野菜の種を採るようにしています。自分の畑で種を採ることを「自家採種（じかさいしゅ）」といいます。自分で種を採るには多少手間がかかります。なぜ自家採種をするのか、理由のいくつかを書いてみたいと思います。

無肥料無農薬の自然栽培では、人間が投入した肥料（化学肥料や有機肥料）や農薬（これを「肥毒（ひどく）」と呼びます。）を作物が吸うことにより、病気や虫が発生すると考えます。このため、無肥料無農薬の自然栽培を可能にするためには、過去に投入された肥料や農薬を取り除くこと、つまり「土から肥毒を抜く」ということが必要になります。

一般に販売されている種子は、化学肥料、有機肥料や農薬を使用して栽培され採種されたものがほとんどと言っていると思います。つまり、市販の種子はほとんどが肥毒を吸収していることになります。無肥料無農薬の自然栽培では、土から肥毒を抜くと同時に「種から肥毒を抜く」ことも重要で、肥毒のない土で作物を栽培し、種子を採らなければなりません。そのためには、自分の畑で、肥料や農薬を一切投入せずに自家採種をしていく必要があるのです。

また、種子は自家採種を繰り返していくうちに、その土地の気候・風土を記憶し、その土地に適したものに変わっていくのだそうです。これには、8年間の歳月が必要だと言われています。これも自家採種をする理由の一つです。

また、世界的にみると、近年、種子を生産する企業の寡占化が進

み、一部の企業が種子を支配するということが起こっています。交配種（F1）と呼ばれる一代限りの種子や遺伝子組み替え種子などが流通の中心となり、伝統的な品種はどんどん少なくなってきました。農家は毎年種子を購入しなければ生産ができない、という状況になっています。農業は、僕達の命をつないでいく食糧を生産する仕事です。その農家の畑で、毎年外部から種子を購入しなければ生産ができないということは、畑で命をつないでいく、ということが行われていないことを意味します。極論すれば、種子を外部に握られている、つまり、農家の命運は外部に、しかも一部の企業に握られているということになります。こうした流れに取り込まれないためにも、自家採種をすることは大切なことだと考えています。

伊達家で自家採種しているものは以下のとおりです。これからも自家採種する野菜を増やしていこうと考えています。

【自家採種している野菜】

トマト、ミニトマト、キュウリ、ズッキーニ、ナス、ピーマン、かぼちゃ、とうもろこし、さやいんげん、さやえんどう、大豆、青大豆、黒大豆、枝豆、花豆、春菊、チンゲンサイ、タアサイ、ルッコラ、人参、ごぼう、